

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成21年9月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0270301567
法人名	特定非営利活動法人 しゃらく
事業所名	グループホーム トントン邑
所在地	青森県八戸市湊高台三丁目1番10号 (電話)0178-33-6314
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年6月10日

【情報提供票より】(平成21年5月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 12.9人

## (2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,100 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13,950 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

## (4)利用者の概要(平成21年5月現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	財団法人シルバーリハビリテーション協会シルバー病院 医療法人オルソ会本田整形外科クリニック 江渡歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域との関りを意識した事業所独自の理念を作成し、町内会の行事へ参加したり、ボランティアを受け入れるなど、積極的に地域との交流を図っており、全職員で理念の共有化を図った上で、理念の実現を目指している。

運営者は、職員の質の確保・向上等、育成の必要性を十分認識し、年間研修計画を作成するなど、職員が研修に参加しやすい体制づくりや、資格取得の奨励を行っている。職員は研修後報告書を作成し、伝達研修を行うことで、全職員に周知している。

利用者や家族の意向に応じた医療機関を受診できるよう支援している。また、病院のほか、訪問看護ステーションと連携をとり、気軽に相談できる関係を築いており、家族も含めた話し合いや情報交換を行っている。

重度化や終末期の対応についての指針が定められており、利用者や家族、病院、訪問看護ステーションとの意思統一が図られているほか、状況変化がある場合は随時話し合いを行っている。

利用者の要望を大切にして、畑仕事、庭仕事、手芸など利用者の経験を発揮できる場面を作り、役割や楽しみ事を配慮しながら、利用者と職員と一緒に生活している。

## 【特に改善が求められる点】

特になし。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を検討し、近隣の事業所への協力を呼びかけており、早期に対応し改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者をはじめ全職員は、評価の意義を十分理解し、前向きな姿勢で評価に取り組んでいる。</p> <p>自己評価は全職員で意見を出し合い、管理者がまとめて完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、評価結果について報告を報告し、改善策等検討している。堅苦しいものではなく気軽に意見を交換する場として位置づけ、自由に意見交換が出来るよう取り組んでいる。</p> <p>また、議事録を作成し、今後の検討課題等をまとめ、ホームの運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月1回ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶり等を報告している。</p> <p>また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示するなど、意見等を出しやすい雰囲気づくりが行われている。</p> <p>出された意見や要望等は、職員間で話し合い、日々のケアサービスに反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区公民館や、町内会の行事に参加し、地域住民と交流を図るほか、ホーム敷地内のバスケットゴールを地域に開放するなどし、日常的に地域住民との交流を行っている。</p> <p>また、ボランティアや保育園児の慰問等を積極的に受け入れている。受け入れの際は、プライバシー、個人情報の保護に十分配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区公民館や、町内会の行事に参加し、地域住民と交流を図るほか、ホーム敷地内のバスケットゴールを地域に開放するなどし、日常的に地域住民との交流を行っている。</p> <p>また、ボランティアや保育園児の慰問等を積極的に受け入れている。受け入れの際は、プライバシー、個人情報の保護に十分配慮している。</p>

## 【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域との関わりを意識した事業所独自の理念を作成しており、全職員で理念の共有化を図った上で、理念の実現を目指している。</p> <p>運営者は、職員の質の確保・向上等、育成の必要性を十分認識し、年間研修計画を作成するなど、職員が研修に参加しやすい体制づくりや、資格取得の奨励を行っている。職員は研修後報告書を作成し、伝達研修を行うことで、全職員に周知している。</p> <p>運営者は、同業者との交流や連携の必要性を認識し、全国、県、地区のグループホーム協会に加入して情報を収集している。管理者はグループホーム協会の研修会や交流会に参加し、交流や連携を通じて得たものを日々のサービス向上や職員育成に繋げている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを利用できるよう、相談受付段階から利用者の視点に立った支援を心掛けている。また、事前にショートステイ等を利用しながら、ホームの雰囲気慣れてもらう等の工夫も行われている。利用者、家族双方の意向に沿うよう時間を掛けて話し合いを行い調整している。</p> <p>職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し理解するよう努めている。また、利用者が作った小物を共有スペースに飾るなど、得意分野で力を発揮できる場面を設け、利用者の状態把握に努めている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には、可能な限り利用者の意見を聞くよう努め、職員の意見や気付きを取り入れ作成している。必要に応じて、家族や関係者、利用者をよく知る人たちの意見や気づきを反映させており、作成された介護計画は、利用者本意の個別具体的なものとなっている。</p> <p>利用者や家族の意向に応じた医療機関を受診できるよう支援している。また、病院のほか、訪問看護ステーションと連携をとり、気軽に相談できる関係を築いており、家族も含めた話し合いや情報交換を行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>日頃から情報収集に努め、利用者の生活暦や力量を把握し、食事や入浴、楽しみ事など、一人ひとりにあった適切な支援をしている。</p> <p>また、利用者の楽しみや気分転換につながるよう、その日の状態に合わせ、散歩やドライブ等、日常的に外に出る機会を設けている。外出先は利用者の希望や習慣を取り入れているほか、その日の身体状況に合わせて、移動方法や移動距離に配慮している。</p> <p>居室には以前から使っていたタンスやテーブル等の家具や、テレビやアイロン等の電化製品、趣味のハーモニカや手芸等が持ち込まれている。また、利用者に合わせて、簡易用畳を敷くなどして、一人ひとりに合ったその人らしい居室づくりを行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を図り、共に生き、支えあい、その人らしさを大切にし、楽しみや生きがいを持てるよう、安全で安心な家庭的な生活を援助していきます」という事業所独自の理念を作成しており、管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも地域密着型サービスの役割を理解し、グループホームと地域が協力し合い、共に地域福祉力の向上が図られるよう業務に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム敷地内には、バスケットゴールが設置しており、地域の子も達へ開放している。また、地区の公民館や町内の行事に参加し、地域住民と交流を図り、ホームと地域との繋がりが密になるよう努めている。ホームの見学は随時行っており、実習生やボランティア等を積極的に受け入れており、ボランティア等外部の方を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、外部評価を客観的に助言してくれる存在と認識し、職員に対しても評価の狙い等を周知している。自己評価は、職員間で意見を出し合い、管理者がまとめて作成しているほか、外部評価結果を基に改善策を検討し、取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町内会、民生委員、市担当課、家族等、利用者が参加し行っており、自由に発言できる雰囲気づくりに努めている。会議には自己・外部評価結果の他に、改善策等を話し合い、ホーム運営の質の向上に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの実態等を理解してもらうために、自己評価や外部評価の結果を市担当課へ提出し、報告を行っている。また、関係機関を訪問し、情報の提供や意見交換などを行い、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内外の研修を通して、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めている。必要に応じて、利用者や家族等に情報提供等の支援を行い、制度利用へと繋げている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修をとおして、虐待防止法に関する理解を深め、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等についての取り決めがあり、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者と家族に対し、ホームの理念やケアの方針を十分に説明するほか、契約改訂時や退居の際も十分に説明し納得を得ている。また、退居の際は利用者や家族等が不安を生じないように、情報提供等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りで暮らしぶりを報告するほか、健康状態や受診状況について定期的に報告している。また、緊急時等は必要に応じて電話等で早急に対応している。金銭管理状況は出納帳に記録し、領収書を添付し報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部・外部苦情受付窓口を明示し、継続的に家族等へ周知している。家族が来所した際には笑顔で迎え、話やすい雰囲気作りをしており、出された意見や要望等は職員間で話し合い日々のサービスに反映させていくように努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員は認知症における環境変化の弊害について理解しており、職員の異動や配置換えは最小限となるよう配慮している。新しい職員を配置する際は、詳細に引継ぎを行い、利用者への説明も十分に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上等、育成の必要性を十分認識し、年間研修計画を作成するなど、職員が研修に参加しやすい体制づくりや、資格取得の奨励を行っている。職員は研修後報告書を作成し、伝達研修を行うことで、全職員に周知している。運営者がスーパーバイザーとして職員の業務に関する助言等を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流や連携の必要性を認識し、全国、県、地区のグループホーム協議会に加入して情報を収集している。管理者職員はグループホーム協議会の研修会や交流会に参加し、交流や連携を通じて得たものを日々のサービス向上や職員育成に繋げている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう、相談受付段階から利用者の視点に立った支援を心掛けている。また、事前にショートステイ等を利用しながら、ホームの雰囲気に慣れてもらう等の工夫も行われている。利用者、家族双方の意向に沿うよう時間を掛けて話し合いを行い調整している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し理解するよう努めている。また、利用者が作った小物を共有スペースに飾るなど、得意分野で力を発揮できる場面を設け、利用者の状態把握に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の様子を観察し、日々のコミュニケーションから、思いや意向を把握するよう努めている。意向が十分に確認できないときは、職員間で話し合うほか、家族や関係者から情報収集を行うなど、利用者の視点にたった意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、可能な限り利用者の意見を聞くよう努め、職員の意見や気づきを取り入れ作成している。必要に応じて、家族や関係者、利用者をよく知る人たちの意見や気づきを反映させており、作成された介護計画は、利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月単位で計画を作成し、実施期間が明示しており、利用者の身体状況に変化が生じた場合等は、随時見直しを行っている。見直しの際は職員だけでなく、必要に応じて利用者や家族、関係者等の意見や気づきを収集し、再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族、地域のニーズに応じて自主サービスを実施している。また、介護保険サービスや自主サービスのほか、本部が実施する支援制度等を組み合わせながら、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向に応じた医療機関を受診できるよう支援している。また、病院のほか、訪問看護ステーションと連携をとり、気軽に相談できる関係を築いており、家族も含めた話し合いや情報交換を行っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応についての指針が定められており、利用者や家族、病院、訪問看護ステーションとの意思統一が図られており、状況変化がある場合は随時話し合いが行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の言動を否定することなく、適切な支援を行っている。また、内外の研修を通して、個人情報保護法やプライバシーの保護について概ね理解しており、十分に配慮し業務を行っている。利用者のファイル等は事務室内に保管し、利用者や来訪者の目に付かないよう配慮している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや、その日の希望、体調等に合わせ柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手な食材は、細かく刻むなどの工夫を行い、食が進むように支援している。また、食事の準備や片付けは、利用者の状況や意思に応じて職員と一緒にしている。職員はさり気なくサポートをしながら、会話を楽しみ一緒に食事をしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣や好みを把握し、その日の身体や精神状況を考慮しながら、希望に沿った入浴を支援をしている。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面にも配慮しているほか、入浴を拒否する方に対して、時間をずらして声かけを行うなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式のアセスメント用紙を使用し、利用者の生活歴や希望、力量等を詳細に把握し、適切に支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、その日の状態に合わせて、散歩やドライブ等、日常的に外に出る機会を設けている。外出先は利用者の希望や習慣を取り入れているほか、その日の身体状況に合わせて、移動方法や移動距離に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、内外の研修等で身体拘束の内容やその弊害について学習し理解しており、身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合は関係者と協議し、理由や方法、経過観察等について記録を残し、家族から同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	口中は玄関を施錠せず、利用者等が日常的に出入りする場所は常時施錠していない。また、職員間で連携しながら、利用者の外出傾向を察知できるように見守っているほか、近隣のコンビニや事業所から、無断外出時に協力が得られるよう働きかけを行っている。やむを得ず施錠する場合は家族から同意を得る体制が整っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に適切な誘導が行えるよう、日中だけでなく夜間も想定した避難訓練を実施しており、消防署や町内会からの理解協力が得られるよう働きかけている。災害発生時に備えて、3日間程度の食料や水を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を取り入れつつ、栄養バランスに配慮した献立になっている。また、食事、水分量ともに摂取量を把握し、適切な支援を行っている。利用者の栄養摂取状況等について助言や指導を得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・早期発見対応マニュアルが作成されており、ミーティングや、内外の研修をとおして学習している。マニュアルは必要に応じて見直しを行い、保健所等と連携をとり、感染症の最新の情報の入手に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日差しが入り明るく、職員が立てる物音やテレビの音量も適切である。玄関等には花が飾られているほか、観葉植物や金魚、亀が飼われており、家庭的な雰囲気落ち着いた空間となっている。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使っていたタンスやテーブル等の家具や、テレビやアイロン等の電化製品、趣味のハーモニカや手芸等が持ち込まれている。また、利用者に合わせ、簡易用畳を敷くなどして、一人ひとりに合った居室作りを行っている。		

※  は、重点項目。